

様式13

## 会派視察研修計画書

令和2年7月27日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木みのり 印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	小池 友妃子		
日時	令和2年 8月18日（火）		
視察先	名古屋市 金山Branch 名古屋市子ども・若者・総合相談センター		
研修内容	金山Branch視察		
日程	日時：8月18日（火）13時から14時30分 場所：名古屋市 名古屋市子ども・若者・総合センター 金山Branch		
交通手段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機)	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

## 会派視察研修報告書

令和2年8月18日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木みのり 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	小池友妃子
日時	令和2年8月18日（火）
視察先	名古屋市 子ども・若者総合相談センター金山ブランチ
研修内容	子ども・若者総合相談センター金山ブランチについて
視察先面会者 又は講師名等	名古屋市子ども・若者総合相談センター永井センター長 名古屋市子ども青少年局子ども未来企画部青少年家庭課長 奥山課長
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 会派視察研修報告書

令和2年8月18日

議員氏名 小池 友妃子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 令和2年 8月18日（火）
- 2 視察先 子ども・若者総合相談センター金山ランチ
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

### 「名古屋市子ども・若者総合相談センターについて」

#### ① 子ども・若者総合相談センターの概要

社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者がまず駆け込むことができ、あらゆる相談に応じて関係機関の紹介その他必要な情報の提供および助言を行うとともに、その子ども・若者が自立等に向かうことができるよう寄り添った伴走型相談支援を行う総合機関として、平成25年6月に開設されたもの。利用対象者は市内に在住する0歳から概ね39歳までの子ども・若者及びその保護者。

#### ② 金山ランチの概要

令和元年10月に開設。

子ども・子ども・若者総合相談センターの相談件数が増加する中、若者が気軽に利用できる場所の環境を整え、若者本人からの相談を増やし、速やかに相談支援に繋げることで、困難の重篤化を防止するために名古屋市南部方面における支部として設置。特徴としては、利便性の良さ、オープン型交流スペース、SNS相談などがある。

#### ③ 金山ランチの実施状況

##### （1）オープン型交流スペース

利用者数：1,620人

面談相談へ至った人数：16人

効果・検証：支援員から声かけを行うことで、若者がイベント等を通じて他者と交流することができたり、支援の入り口としての機能を果たすことができた。

## (2) SNS相談

友達登録数：692人

相談件数：468人

面談相談へ至った人数：24人

効果・検証：気軽に相談できるので若者本人からの相談が電話等よりも多い。

よって深刻な相談に対しても、子ども・若者総合相談センターの来所相談を促すことによって、早期支援につなげることができている。

## 「名古屋市子ども・若者総合相談センター取組みの報告」

### ① 理念（スタッフ全員で決めた）

迷いも弱さも、そこから生まれる小さな勇気もずっと大切に  
どんな生き方も認められるオールOKな社会をつくりたい

### ② 令和元年度実績（センター機能）

相談者実数：790人 前年度比115%（内新規378人）

のべ相談件数（面談・電話・メール等）：9,076件（月平均756.3件）

連携機関数：296機関件（延べ連携機関数3,270件）

ケース会議：652回（356機関）

アウトリーチ（訪問支援）数：1,715件（355人）

ボランティア（よりそいサポーター）稼働率：619件

相談者の年齢：10代が50%で半数

相談者別の割合：本人22%、母53%

主訴別相談件数：ひきこもり、不登校が圧倒的に多い

### ③ よりそいサポーター（密接な他者として寄り添い応援してくれる人の存在

登録人数：120名

R元年稼働数：619件

家庭訪問：不登校・引きこもりの家庭等を訪問し、相談者の状況に応じた働きかけを行う

同行支援：支援機関、居場所、公的機関病院などに同行

面談・おしゃべり：コミュニケーションの苦手な若者と、会話をすることで、若者の気持ちに寄り添う

居場所・プログラム参加：若者たちと一緒に趣味や楽しみを一緒に見出す

たった一人の相談者のために、オーダーメイドのチームをつくる

### ④ リアル相談につなげるLINE相談

友達登録数：1,251人（R2.8.1現在）

相談者実数：80人以上/月

のべ相談件数：200件以上/月 傾聴が67%

相談者の年代：15-19歳（42%）、20-24歳（16%）※R1.10.31-2.3.31

\*本人からの相談が87%。女性が78%

## ⑤ オープン型交流スペース 金山ランチ

目的：下記でいう黄色信号の子ども・若者に対して、早期にアプローチすること

- ・学校や会社に無理して何とか行っている
- ・発達障害等潜在的な生きづらさを抱えているが、認識していない
- ・家庭環境に問題あるが、顕在化していない
- ・将来に不安を感じ、社会に出ることに恐怖を感じている
- ・辛さを他人に相談できていない

- 概要：
- ・2019年10月30日開所
  - ・月曜～土曜日まで開所（祝日、年末年始は休館）
  - ・14～21時開所時間
  - ・利用には簡単な登録必要
  - ・名古屋市在住の15～概ね39歳の方利用可能
  - ・無料

### 【視察を終えて】

子ども・若者育成支援推進法の第13条には、地方公共団体は、子ども・若者育成支援に関する相談に応じ、関係機関の紹介その他の必要な情報の提供及び助言を行う拠点（第二十条第三項において「子ども・若者総合相談センター」という。）としての機能を担う体制を、単独で又は共同して、確保するよう努めるものとする。

とある。ここでの体制は、出向いて行って話を聞く。待つだけではなく、相談がしたくてもできない人のそばまで近づいていく、そしてその人のペースで進むことに寄り添うことをしている。わが市でもこういった待つだけでなく、寄り添いながら、支援する活動を今後進めていくことが必要ではないかと感じた。一人一人の場をつくること。生きていてよかったと感じあえる場をつくることの大切さを視察に行き感じ取ることができた。

